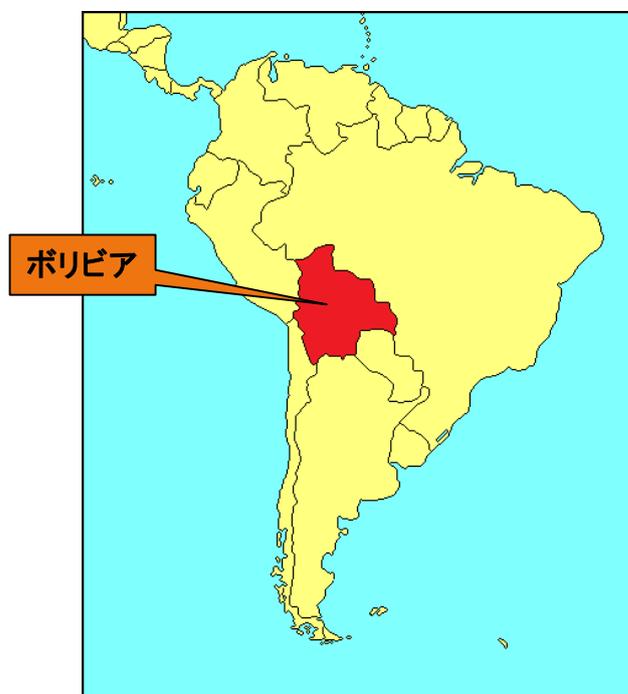


ボリビアでボリビア出血熱が発生(更新 2)

2012年7月30日 ProMED 情報(La Razon)



今年に入り、13名がボリビア出血熱に感染し、7名が死亡しています。ベニ県の5つの市では、マチュポ Machupo ウイルスを保有する *Calomys Gallosus* (ブラジルヨルマウス) が多数生息しており、例えば、ウアカラヘ Huacaraje 地区では80%のマウスがウイルスに感染していました。

最初の死亡患者は、1月29日、僻地の住民で、受診が間に合わず死亡しました。その3日後に12才の少女が死亡しました。4月には3例目の死亡患者が報告されました。4月以後現在までに他に4名の死亡が報告されています。

ボリビア出血熱は「黒いチフス」と呼ばれ、マチュポウイルスによる感染症で、ブラジルヨルマウスが宿主です。症状は、発熱、偏頭痛、筋肉痛、関節痛で、最終的には全身からの出血症状を呈します。

この病気は、感染したマウスから排出される糞、尿や唾液によって、またマウスやそのえさを手でさわる事によって、さらに汚染した水やホコリを吸うことによって感染します。

ウイルスは、ボリビア北部地域、タリハ Tarija 県チャコ Chaco、コチャバンバ Cochabamba 県の熱帯地域周辺に存在しますが、ベニ県以外での患者の報告はなく、ベニ県の5つの市マグタレイ Maddalena、パウレス Baures、ウアカナヘ、サン・ジョアキン San Joaquin、サン・ラモン San Ramon では、6月以降、警報が出されています。